

動燃事業団東海・NTT茨城

見 学 記

去る7月4日(月)、広報委員会企画による見学会が行われた。見学先は動力炉・核燃料開発事業団東海事業所と日本電信電話(株)茨城研究開発センター。

雨模様の中、東京駅前を朝7時半出発という悪い条件にもかかわらず、30名の参加者(事務局を含む)が無事スタート。

途中バスガイドの簡潔な案内とBGMを聞きながら、10時少し前に動燃東海事業所に到着。

高レベル廃棄物処理技術開発室の堀江室長の出迎えを受けて会議室に入る。動燃の概要説明のあと、佐々木室長代理にも加わっていただいて、2手に分かれて見学。

高レベル放射性廃棄物のガラス固化処理技術の

概要について、実物大サンプルを見ながら説明を受ける。最終的には地中埋蔵処理を行う予定のことであるが、その為に地盤の動き、地下水の動き、岩石の性質まで、およそ数万年オーダーの気の遠くなるような計画である。

その後、模擬廃液を使っでの最初のガラス化実験炉、実際の稼動を見越しての処理工程(廃液濃縮、溶融、鑄込み等の諸工程)について説明を聞きながら歩く。

さらに実際の廃液を使っでの処理実験設備を見学。ここは放射性物質を扱うため完全に隔離された空間になっている。入口で白衣を羽織り、靴カバーを履く。実験は放射線遮蔽ガラスを覗きながらマジックハンドを使って行われる。混合、溶融、



再処理工場全景

鑄込みから、各種測定装置まで、すべて遠隔操作。見学を終わると残留放射能の有無を一人一人計って安全性確認をした上で外へ出ることが許される。

見学を終わって会議室に戻り、昼食をとる。余談であるがサービスしていただいた女性職員の方々のしつめの良さには感心。若干の時間的余裕があったので展示館を自由参観した後、次の見学先に向かった。

NTT茨城では、光エレクトロニクス研究所無機材料研究室の高橋室長の出迎えを受けて会議室へ入る。村瀬研究企画部長にNTTの研究開発体制の概要を伺う。研究開発技術本部に属する研究者、技術者は3000人、14の研究所、開発センターに分かれて研究開発に当たっている。茨城研究開発センターには約320名の研究者がいる。光エレクトロニクス研究所に属する人が約140人、他に伝送システム研究所、電子応用研究所など。なお、光エレクトロニクスは、茨城のほか一部は厚木で研究を行っている。つまり、場所と組織とは1:1で対応していない。

見学は3班に分かれてご案内いただく、それぞれ

の見学先では担当の方々から詳細な説明をしていただいた。展示室には研究成果の基づく各種サンプルが並べられている。大きなものでは光ファイバー用母材、小さいものでは各種の光部品が沢山置かれており、ひとつずつ説明がある。

光ファイバーの研究では研究室に伺って、各種のファイバーの研究経過、最近の状況について伺い、線引き設備を見学させていただく。

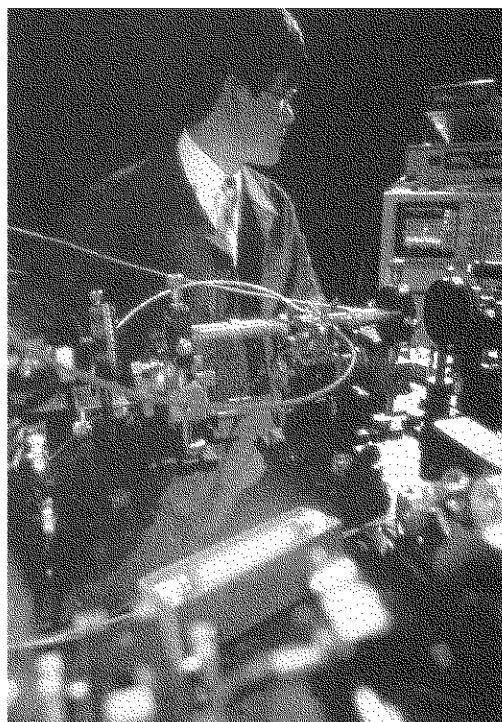
材料の研究において大切な分析技術に関して、放射化分析の詳細説明を受けて見学終了。

会議室に戻って質疑応答の後、NTTを辞した。

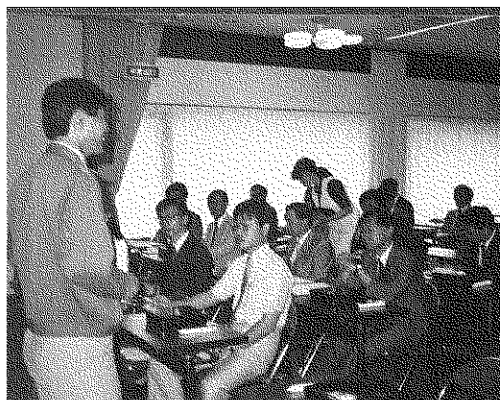
NGFとしては初めての見学会で、事務局も不慣れのため、見学先や参加者にいろいろご迷惑をかけたことと思います。

最後になりましたが、懇切な対応をしていただいた動燃、NTTの関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

(NGF事務局 上松 敏明)



NTT茨城・光交替技術



説明に聞き入る参加メンバー